

NHK放映翌日の小学校の研修会で根拠のない中傷があり、本年は指導要領以外の教育実践へのクレームもあった¹⁾とのこと。 「伝習館高校事件」の判例を見ても、「行政処分」をチラつかせながら「指導要領の拘束性」を迫ってくる可能性も考えられます。

しかし、「誰もが泳げること」を実現することは、「教育をみんなのものに」する運動として極めて重要

〔表紙のことば〕

調理実習

那須 高明

座学に慣れた子供たちは作業をとまなう学習には初めはめんどろがって尻ごみするが、始めてみると夢中になり、仕上がった時の満足感は大い。既成品やインスタント物を食べなれている子供たちにとって調理実習はそのいい例であろう。

私の学校では普通科三年の選択科目に「食物Ⅰ」があつて、男子生徒にもけっこう人気がある。選択の理由は料理が好きだからとか、進学して自炊生活をするからが殆どで、家事は男女平等の責任と権利によつて

な意義を持っています。「フォーラム」は父母にとつては子ども達の発達の願いや可能性を実現する場として、教師にとつては民主的な教育実践を学び検証し拡大してゆく場としての役割をもっています。そして、将来的には、企業主導の草の根保守主義の「生涯教育体系」に抗して、「主権者としての国民的教養」をつちかつてゆく共同体(コミュニケーション)としての役割を担

支えられるものだという意識はまだ判然とはしていません。しかし実習の時間は積極的いきいきと男女が協力して活動している。担任の先生のお話だと男子は概して臨機応変で創造的で、女子だけの時間とは違った面白さがあるという。

表紙のデッサンは小学生の授業を想定したものが実際に参観したことはない。さぞ面白い人間模様が展開されるのだろうと思いをめぐらせながらこれを描いた。

社会的な生産活動に重点を置いた学習が重視されるだけでなく、人間的豊かさ、喜びの満ちあふれた家庭を作り上げる男女共習の家庭科を実現したいものだと思う。

(なす こうめい 長岡大手高校)